

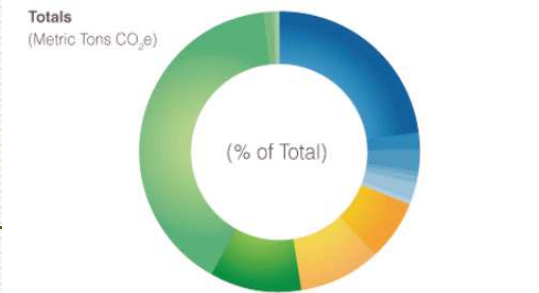
## 各社の考え方

<p><b>□ 算定を行う背景・目的</b></p>	<p>1990年台に通勤、出張、特定の製品物流に関するカテゴリの算定を始めた。2003年からは全てのCDPIに回答しており、公開されている。サプライチェーン排出量の算定・公表を行うことは、企業の透明性を高め、排出削減への取り組みにつなげることができる。</p>
<p><b>□ 算定方法</b></p>	<p>2010年以前は様々な推計方法を用いていたが、2010年にはGHGプロトコルによるScope3スタンダードのドラフトを参考に算定を行った。また、2011年からはこのスタンダードの最終版を参照しており、2011年のScope3の算定結果は410万t-CO2と試算している。</p>
<p><b>□ 社内の算定体制</b></p>	<p>Webベースの環境マネジメントシステムを活用して、世界中からデータ収集を行っており、これによって排出量を算定している。カテゴリごとに確立された算定方法、適切な排出原単位を使って算定を行っており、いくつかのベンダーからはGHG排出量のデータを入手している。</p>
<p><b>□ 算定結果の活用方法</b></p>	<p>Webサイトやサステナビリティ報告書での公表の他、業界団体でのプレゼン、サプライヤーとの協働、大学教育活動などへ活用している。</p>
<p><b>□ 排出量管理のメリット</b></p>	<p>従業員の社内教育や顧客を含むステークホルダーへの情報公開を行うことができる。また、企業としての透明性を高めることで、外部からの評価を得ることもできる</p>

Baxter Website

<http://www.sustainability.baxter.com/environment-health-safety/environmental-performance/ghg-emissions-across-value-chain.html>

Baxter's Global GHG Emissions Footprint, 2011\*



	2010	2011	2011 (% of Total)
<b>Upstream (Scope 3)</b>			
Purchased Goods and Services	1,036,000	1,121,000	23.1%
Capital Goods	96,000	96,000	2.0%
Upstream Transportation and Distribution	115,000	124,000	2.6%
Waste Generated in Operations	6,000	7,000	0.1%
Employee Business Travel	50,000	51,000	1.1%
Employee Commuting	84,000	84,000	1.7%
Upstream Leased Assets	21,000	22,000	0.5%
<b>Subtotal</b>	<b>1,408,000</b>	<b>1,505,000</b>	<b>31.1%</b>
<b>Baxter Operations (Scope 1 and 2)</b>			
Facility/Vehicle Fuel Usage (Scope 1)	328,000	336,000	6.9%
Purchased Energy (Scope 2)	443,000	458,000	9.5%
<b>Subtotal</b>	<b>771,000</b>	<b>794,000</b>	<b>16.4%</b>
<b>Downstream (Scope 3)</b>			
Downstream Transportation and Distribution	484,000	523,000	10.8%
Use of Sold Products	1,875,000	1,955,000	40.3%
End-of-life Treatment of Sold Products	55,000	57,000	1.2%
Franchises	7,000	7,000	0.1%
Investments	4,000	4,000	0.1%
<b>Subtotal</b>	<b>2,425,000</b>	<b>2,546,000</b>	<b>52.5%</b>
<b>Total</b>	<b>4,604,000</b>	<b>4,845,000</b>	<b>100.0%</b>

\* The emissions reported in this graph are presented in accordance with guidance provided by the GHG Protocol (Scope 1 and Scope 2) and the Corporate Value Chain (Scope 3) Accounting and Reporting Standard. Baxter does not currently report Scope 3 emissions in the following categories: Fuel and Energy-related Activities (not included in Scope 1 or Scope 2 emissions), Processing of Sold Products, and Downstream Leased Assets.

## 各社の考え方

### □ サプライチェーン排出量の削減の取組

\*1  
<http://sustainability.baxter.com/quick-links/case-studies/2011-report/e-impact-global-growth.html>

Baxterでは、2009年以降、サプライヤーのサステナビリティを評価するフレームワークとして、20の環境関連の調達基準（GHG排出量の管理も含む）を導入している。この基準は、自社のサステナビリティへの取組みに沿った5つのカテゴリに分けられており、2010年にはサプライヤーの人権保護活動を評価するカテゴリが追加された。この基準に従い、100社のサプライヤーを年一回調査しそのパフォーマンスを評価している。また、サプライヤーと協働することによる環境問題への取組みを表彰する制度（e-impact<sup>\*1</sup>）を設けており、従業員は削減取組のアイデアやプロジェクトを提出するとともに、他のアイデア・プロジェクトを参考にすることもできる。削減のプロジェクトが成功した場合には、サプライヤーと従業員の両方を表彰している。

### □ サプライチェーン排出量算定の課題

Scope3の多くのカテゴリにおいて、その算定方法は開発途上であり、Baxterではまず特定のカテゴリの算定を行い、その後、毎年精度を向上させ、サプライヤーやベンダーから情報収集を行う範囲を広げている。

Combined Results of Successful e-Impact Projects		
	2010	2011
e-Impact Project Ideas Submitted	5	107
e-Impact Projects Successfully Completed	5	41
Cost Savings	\$231,000	\$3,100,000
CO <sub>2</sub> e Emissions Reduction	162 metric tons	15,000 metric tons

### □ これからサプライチェーン排出量を算定する方へ

まずは出張などのような算定が容易なカテゴリから取組を始め、徐々に拡大していくことが必要である。データ収集や排出量管理を行うことに役立つような社内のシステムやデータベースの整備などを行うことが重要である。Scope3排出量を管理するシステムを構築することは、一定のコストを要することになるが、サプライチェーン全体の排出量の開示を求めるようなステークホルダー（顧客、投資家、政府、環境団体、業界団体など）からの要求に対応できるようになるなど、様々なメリットがある。Scope3の算定を始めるのが早いほど、ステークホルダーから要求された際の準備をしっかりと行うことができる。

Baxter Website

<http://www.sustainability.baxter.com/supply-chain/managing-supplier-performance.html>